

VI 参考（自由回答）

問17 男女共同参画についてあなたが日頃感じていることや、鳥取県の男女共同参画の推進に関する取組についての御意見などがあれば、自由にお書きください。

ここでは、数多く寄せられたものや異なる視点での御意見を中心に、一部を要約のうえ掲載します。

1 男女共同参画社会について

- 男女共同参画社会の実現が男女平等を強調しすぎるあまり男女それぞれに必要以上の負担を強いてしまうものになってはならないと思います。
- 地域性でしょうが、排他的な風土がまだまだ残っている様に思います。特に地域社会の場（集落）での意思決定は、男性の発言力が大きいと感じています。しかし、その中で地域の行事等で女性の場も用意されている所もあり、基本的には、役割分担がうまく行われている所もある様に思います。老若男女を問わず、それぞれの役割分担の考え方、平等との違い等考え方を個としてとらえ、尊重することを望みます。
- 男女共同参画社会の実現に向けた支援や制度化は必要ですが、生まれながらの男女差（母性や体力等）だけはどうしてもありませんからおのずと限界があります。女性の参画率など、高い数値目標を定めて、それが達成できたからといって、本当に幸せな社会につながるとは思いません。大切なことは、夫婦、家族、職場等それぞれの関係の中でよく話し合い、納得の上で男女の役割分担ができればそれでいいと思っています。
- 一人ひとりの考え方次第で、実現できるか、できないかが決まると思います。
- 法律や制度を整備していくことも大切ですが、人の意識、考え方が変わらなければ意味がないと思います。個人の意識だけでなく、地域や職場など、さまざまな方面から改革をすることが必要だと思います。男性、女性がお互いによりそっていくところも必要だと思うので、どちらか一方が変わればよいのではなく、どちらも変えていかなければなりません。男女共同参画についてはぜひ推進していただきたいと思っています。
- 私自身は男女共同参画にはあまり賛成ではありません。文言はすばらしいと思うのですが、どうしても「すべての女性が働かなくてはダメ」となってしまうがちだからです。法律なども世の中の目も専業主婦はありえないという感じになってきています。家庭の事を一生懸命している人でも、なんかどんどん肩身がせまくなってきています。別に楽してるわけではないのに。もっと働く人にも、働かない人にも優しい世の中になるのが目的だと思います。
- 各家庭で合意のもとであれば、いろいろな働き方・家庭内の役割があつて良いと思う。

- 年代により男女の働き（仕事、家事を含む）考え方に違いがありすぎる。大正、昭和の方は、男子厨房に入るべからず的な考えがあり、同居をする場合、柔軟な受け入れ体制がなければ、家事、育児は女性の仕事とし、ゴミ捨て、洗濯物を干す等、当人達が話し合っ決めていた事でも、近隣の目があり、非常に理解されにくいと感じる。特に、田舎、郡部では理解を得ることが困難なように感じる。
- 母親が父親になれないように男と女、もともとの性質の違いから、全てにおいて平等というのはありえないと思います。能力のある女性が多いのは事実ですが、男性と同じように働けるかというところではない場合が多い。そういった状況を見捨てて女性の管理職を増やす、女性の地位をあげるなどは、逆に女性が優遇されることとなり、男性の不満になるのではないかと。
- 人権教育にも言えると思うが、男女共同参画の推進に偏って権利を強く主張する人間ばかりになると社会がギスギスしてしまう。社会にも、男女間にも潤滑油が必要。お互いに求められる男性像、女性像を自覚する事が大事。日本人は何と言っても女性が和撫子、男性は大和魂の精神を持つことが望ましいです。
- 家庭を持ち子どもを育てるという大切な役割をもって共同参画とはみなされないのでしょうか。
- 「男女共同参画」この言葉をよく耳にしますが、内容を理解しきれていません。県民も積極的に知ろうとする事が必要ではないかと思えます。
- 鳥取県の男女共同参画の取り組みは、全国的にみても高いレベルなのではと私は思います。しかし、人口も少なく閉鎖的で同居率の高い県でもあるので、その家々での考え（女性が家事をして当たり前、義父母の介護等は嫁がするものなど）が古ければ、なかなか男女共同参画の意識が進まないと思います。
- 女性は子どもを産む性であり、母乳をあげるということは子どもを守り・育てることだと思います。これは女性だからできること、女性でなければできないことと自覚してしっかり子育てして欲しいです。夫、家族、社会の協力はもちろんですが。家事・育児が仕事と同じように評価されればいいことですね。この頃、主婦という言葉が使われなくなりましたが、私はプロの主婦になりたいと思います。
- 現状の社会における男女間の格差には長い歴史での慣習や根本的な男女の差が影響しており、短期間の取り組みでは、一時的な効果しか期待できないと思えます。実現のためには、幼少期からの長期間の教育や強制力のある法や条例の整備が必要であるし、そもそも女性が男性と同じ様な働き方や社会への関わりを望んでいるとは思えません。ただし、男性の労働環境については改善の必要が大いにあり、男性側のワークバランスが変化することで、家庭内や地域での役割や負担は変わってくると思えます。
- 男女共同参画社会は、成人になったからといって実践できるものではなく、幼少の頃から意識付

けをしていかななくてはできないことではないかと思えます。

- 家事や育児に男性ももっと積極的に参加すべきだと思うが、10年後（将来）男女問わず得意とする方がすれば良いと思っています。現在は、（これまでは）そのことを選択するだけの基盤が未完成だと思います。
- 男女共同参画が、表面的なかけ声だけで満足して終わらないか心配です。男性優位で成り立つ社会である現在、結婚して家族を持つことの辛さを見た若者、特に女性は結婚して子どもを生もうとしません。少子高齢化は、本当に根の深い問題です。結婚し、子どもを生み育てる事が豊かで幸せな人生であるという考えはいまやありません。仕事もでき、子どもも産み育て、生きがいのある女性の生き方は大きくゆらいでいます。この機会を逃しては、益々、人口減少が進みます。家事や育児を女性に押しつけない。社会で子どもを育てたいです。

2 就労・働き方について

- お金があれば女性は子育てに集中できます。働きに行く必要はないと思います。子どもを産めと言ったり、働けと言ったり、すごく正反対のものを同時に進めても結果がでないのではないのでしょうか。男性の給与の見直し、労働時間の長さなどを見直してほしいです。実際、働いて、仕事終わったら園に迎え、子どもとの時間はさておき、家事（食事の準備）などで主人の帰りが遅いのですべての事をしなければいけない現実です。
- 女性の人権は尊重されてきていると思う。また女性に対する差別は現状ないように感じる。女性も特性を生かした職場への進出を自身努力して進めて行ければもっと働きやすくなるのでは。現状では企業トップへの女性の進出は少なく欧米型になればと女性としては願います。
- 一度、仕事を辞めたとしても経済的理由（子どもの進学等）で、仕事につきたいと思う時期が来ます。特に40代にその時期を迎える人が多いと思いますが、その年代から極端に求人が少なくなります。それがあから子どもが幼い時は、と考えながら仕事を続ける人もあると思います。色々、その人に合ったパターンの仕事の仕方があってもよいと思います（女性の場合）。
- 女性が母となった場合、今の世の中でとても難しいとされる子育てに、時間と力を注げるようなシステムを作ってもらいたいです。就学前までしっかり、子どもと向き合える時間を確保できるような育休の拡張。復帰の保障。育休制度があっても、なかなか休めないのが現実です。一度辞めると全てが最初からになり、女性の人生を考えると、リセット、リセットの連続で、なかなか積み上げができません。子育てを大切に考える程、一人の女性、人間としてのキャリアの積み上げは難しいです。
- 女性の参画が少ない理由は種々な原因があると思いますが、共働きした経験者として、組織の中で就労している又は職場での男女の位置を見ると、明らかに女性が軽視されていると思われる職場がまだ多いと思います。これを正すには女性の職業意識はもとより男性（特に上司）の意識改

革が改善されれば、女性の参画がもっと増えると思います。

- 結婚＝退職または妊娠＝退職との考えの会社がまだまだ多いように感じます。また、結婚している女性は、いつ妊娠するかわからないからいない。このような発想は確かにあるし、一理あるとは思いますが、このせいで働けない人が多いのも事実であり、そのために生活が苦しい家庭も多いと思います。
- 私がいつも思うことは子どもが急に熱が出たり、病気になったとき、特にお母さんが会社を休んだり、早退しなければなりません。その時の会社の対応により会社を辞めざるを得ないと思います。また、女性が育児、食事の用意、それに勤めにでると一日中息つく暇もありません、それに比べ男性は会社に行くのみ、もっと男性が協力しないと女性は疲れてしまいます。今の女性は結婚しない方が多く、会社の役職があがればなおさら結婚しない方を選んでいるのではと。少子化になるのは当たり前だと思います。
- 女性が仕事を持つことに関して良いことだと思いますが、出産をした場合は赤ちゃんに母乳をあげている間は休むべきだと思います。もしも母乳が出なくて、粉ミルクだったとしても、せめてミルクで育てている間はお母さんが主になって育てるべきだと思います。それが、女性の人生の中でいちばん大事な役目です。そういうことも覚悟して赤ちゃんを産むべきだと思うし、働く女性の地位とか云うより大事なことなので、まず、そこをちゃんとやってから外で働くべきだと思います。
- 家事や子育ては人として大切な仕事であるということをみんなが認識しなければならないと思う。お父さんもお母さんも仕事にとられ、育児は公的機関でというのは間違い。子どもを育てるということを中心に家族が協力し、そこは公的支援が加わることが望ましい。
- 数値目標のみにとられることなく、男性と女性が性別を抜きにした真に平等な評価（業績、人間性等）をするシステムの構築が達成されることを切に願う。
- 何かイレギュラーなことがおこり、尚且つ、家族が仕事を休めない場合、サポートの体制が整っていると安心します。「職場の雰囲気は休みにくい」などもなんとかならないかと思います。男性の上司の考え方、子育てを終えている女性の先輩。
- 職場や地域、学校のPTAなど、もっとかかわってみたい気持ちはあるが、今の生活のままでは自分にばかり負担がのしかかり無理であるため、断念するしかない。職場の理解が得られにくいため、育児休業も取れません。

3 行政への意見等について

- 共同参画を考える前に鳥取県として若者が子どもを持てる環境や職場の充実を計り消滅県・市・郡・村にならないための方策を考える必要があります。その土台の上に共同参画あるべきです。

- 男女共同参画の成果は、すぐには数字になって表れにくいものだと思います。パーセントのみにこだわって、目先の目標としないよう、土壌づくりに予算と時間をしっかりかけてほしいです。まずは教育から（学校、職場、地域など）。
- 国に左右されずに鳥取県が独自に行ったりすることを推進して、これだけは、国には負けないものを考えて行ったらいいと思います。
- 「男女共同参画」って今始まったことではなく、かなり前から言われている。実現すれば、理想の社会ということになるが、永遠のテーマとも言えます。現実には難題が多いです。共同参画の視点から、慣習の見直しや広報・啓発について、住民にもっとPRしていただきたいと考えています。
- 男女共同参画という名称が、はじめて聞いただけで理解しにくい。内容（活動）についても、メディアを使って、わかりやすくPRしていけば良いと思います。回数も多くして、子どもでもわかる内容にする。
- 女性が活躍している企業を取り上げて、広報誌の中で企画を作ってみてはどうでしょうか。中小企業では、どうしても、女性の活躍の場が制限されているように感じます。（育休を取ると、復帰しづらいなど）都市部では女性が活躍できる環境を作っている企業が多く、そういった企業が大きく成功しているが鳥取ではまだまだ遅れているように感じます。経営者の方々の意識が遅れているのが現状だと思います。
- 外来語、和製英語、外国語的な造語は極力使用しないほうがよいと考えます。お年寄等に伝わりにくい。具体例「ポジティブ・アクション」「ドメスティックバイオレンス」など。自信をもって適切な日本語により、表現すべきではないでしょうか。
- 妊娠・出産を理由に辞めてくださいと平気で言う社長がいます。そういう事がおきない活動、取り組みをしっかりしてもらいたいです。こういうことをなくすことが男女共同参画につながると思います。
- 地域、それぞれの集落ごとに子どもの預かり先があれば助かると思います。定年後のボランティアとして、定額、無償で子どもを預かってもらえる場所があれば。
- 社会参画に対する各個人の希望、又、個人の周辺環境の違いにより、一元的に推進せず、各々の希望に添えるべくインフラ整備すべきと思います。
- 若い世代は子育てで忙しく、なかなか関わるのが難しいので仕方がないかもしれないが、男女共同参画に向けてがんばっている方々の年齢が高すぎると思います。もっと若い人が入っていかなければ、変化、推進に時間がかかると思います。若い人が興味をもてる工夫が必要です。

- 子育てについては、女性が主にやるイメージがあるせいか、男性が育休を取っているのを見たり、聞いたりすると新鮮な感覚です。職場において、男性が積極的に育休など育児のための休暇を取りやすい環境づくりが女性の負担などを減らす重要なものの1つだと思います。
- 1年間の保育休業では、子どもがかわいそうです。子育ては人間一人を作り上げる大きな仕事です。もっと行政が支援するべきだと思います。
- 女性が社会進出できる環境整備が不十分。女性の労働意欲を呼び出す施策が不十分。
- 地域や家庭の意識が低いと思うが、女性自身がそれに甘んじている面もある。女性が自分自身の意識を高められるような取り組みが少ないのではないのでしょうか。
- 意図はわかるが、余りにも女性優位を進めることは感心できません。
- 女性の方が女性の足を引っ張っているような気がします。男性だけでなく、女性（特に年配者）の意識をまず先に変える必要があるかと思います。
- 鳥取県では男性の仕事が少なく、収入も少ない。従って女性が働きにでる必要がある場合が多いと思います。県全体の経済力の向上が必要だと思います。
- 少子化が叫ばれているが、批判を承知で「子どもを産んで育てよう」とトップが進めてもいいと思う。不妊に悩んでいる人がいるが、「もう一人産もうか？」と考えている人に対しては、後押しになると思います。「子育て支援充実」よりも「子どもを産んでください」の方が女性には響くのでは。女性が子どもを育てることの大切さを理解していけば、もっとゆとりをもって、子育てを楽しめるのではないのでしょうか。
- 共働きを支えているのは、保育士、介護士さんである。男女共同参画推進にお金を使うより保育士、介護士さんの給料UPする方が多くの若い男女が鳥取で働いて結婚できる。
- 子を産める性は特別であり、個人の自由、性の平等と職業の平等を男性と同じ扱いにすれば出産数は減ります。少子化を止めるために政策として推進するのなら、出産、育児時の親の負担をもっと軽くすべきで、理念や教育の前に生活を支える政策が必要ではないかと思います。女性の正職をふやすことが本当に望まれている働き方かどうか疑問です。休んでも、辞めても、働きたいとき、活動したいときにできるシステム、支えがあれば、負担感が減るのではないのでしょうか。長時間労働を（男性も含め）支えるような支援策（保育、介護）を充実させることは、本来すべきではないと思います。